

# ①聴覚障害教育センターだより

令和2年2月

富山県立高岡聴覚総合支援学校

本校は、聴覚障害児教育の専門機関として「聴覚障害教育センター」を併設し、「きこえ」や「ことば」に関する相談に応じています。医療、福祉機関、各種教育機関、補聴器専門店などの連携を密にし、活動を進めています。



## <乳幼児教室>

0歳から2歳の聴覚障害のある乳幼児を対象に乳幼児教室を行っています。保護者と遊びながら、子供たちが音の世界を知り、楽しんで声を出したり、やり取りしたりできるよう支援しています。更に学習会も実施し、難聴児の聞こえや言葉、発達、子供との関わり方などについて学び合う機会としています。本年度は以下のような内容を実施しました。



## 2019年度 ひよこクラブの活動

回数	日時	内容	講師
1	6月12日(水)	難聴について	本校 教育相談室
2	6月26日(水)	初めての手話	富山県聴覚障害者センター 前施設長 小中栄一先生
3	7月 4日(木)	幼稚部ミュージック・ケアに参加・交流	富山ミュージック・ケア協会 代表 加藤善之氏
4	7月10日(水)	幼稚部夏まつりに参加・交流	
5	7月24日(水)	先輩保護者の講話	本校中学部生徒の保護者
6	9月 4日(水)	幼稚部表現活動(造形、描画)に参加・交流	あとりえてぐり 鈴木明子先生
7	9月18日(水)	障害認識について	大沢野幼児ことばの教室 土田昌作先生
8	11月13日(水)	学習レディネスの育て方	富山聴覚総合支援学校元校長 永山真砂美先生
9	12月11日(水)	これまでの思い出、これからの希望	本校高等部生徒
10	12月19日(水)	幼稚部クリスマス会に参加・交流	
11	1月29日(水)	食育(簡単レシピ)	本校栄養職員



## 難聴児はどんなことで困るのか？

### 【授業のとき】

- 板書をしながら後ろ向きで話すと、難聴児は理解することが難しいです。話すときには児童生徒の方を向いてください。
- 教室内を歩きながら話されると、難聴児は理解することがとても難しいです。大事なことは、難聴児の近くで話をしてあげてください。また、窓を背にすると口元が暗くなって見えにくくなりますので、光の方向にも気を付けて話してください。
- 発言で行われた大切な情報を伝わるように板書をきちんとするとよいです。視覚教材の活用も有効です。
- 席が離れた他の児童生徒の発言は、読み取ることが難しいです。児童生徒の発言は、再度先生が要約して話してくださると理解できます。



### 【学級・グループでの話し合いのとき】

- 早いテンポの話し合いについて行くことは大変です。今、誰が話しているのか、難聴児がわかるように発表者が挙手してから話をするなどの工夫をしてください。
- 発言する児童生徒は、できるだけ難聴児の方を向いて話をするとうわりやすいです。
- 学級での話し合いは、できれば先生が発言者の発言の要約を板書されるとよいです。

### 【校内放送・視聴覚教材】

- 校内放送を聞き取ることは難しいです。低学年なら先生が、高学年以上なら周りの児童生徒が難聴児に伝えるようになれるといいですね。
- 聴力にもよりますがテープ、CDから音声を聞き取ることも難しいです。DVDなら字幕付きのものがあるとよいです。



### 【教室環境】

- ポスター、写真、表、グラフなど視覚的教材・掲示物を積極的に活用してください。掲示することで、正確な情報を得ることができます。
- 指文字50音表を貼ってクラスの友だちが覚えてくれると難聴児にとってコミュニケーションの補助になります。

参考文献：難聴児はどんなことで困るのか？  
—豊かな心とことばを育むために—  
木島照夫・菅原仙子・岡野敦子編著  
難聴児支援教材研究会 発行



**【問い合わせ先】** 富山県立高岡聴覚総合支援学校  
教育相談室（聴覚障害教育センター） 岩本  
〒 933-0824 高岡市西藤平蔵700番地  
Tel 0766-63-6385 FAX 0766-63-5884  
E-mail takaokachokaku@ed.pref.toyama.jp